

『指導救命士としての当本部の取り組み』

	都道府県名	愛知県
	所 属	岡崎市消防本部 中消防署本署
	氏 名	東地 佑典
指導救命士エンブレム	職名・階級	救急隊長・消防士長
エンブレムなし	指導救命士養成研修 受 講 時 期	令和2年度 指導救命士養成研修 第2期 修了

1 指導救命士認定後の主な取り組み内容や活躍状況について

岡崎市では、愛知県救急業務高度化推進事業における救急隊員教育実施細則に基づき、救急業務教育指導者を認定し、救急救命士及び救急隊員に対して、各種教育、指導を行っています。指導救命士の養成は令和元年度に1名、令和2年度第2期を修了し、当本部では2人目となります。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、日本の救急医療体制は大きく混乱しました。当本部も例外ではなく、私が研修を終えた時期は、新型コロナウイルス感染症第2波の真っ只中であり、全救急隊員に感染対策の教養及び訓練を行うことが、指導救命士としての喫緊の課題でした。

当本部は、感染防止対策の方法を模索し、感染防止対策マニュアルの改正、標準予防策の徹底について考察しました。通常は予備車である非常用救急車を新型コロナウイルス感染症専用車両とするなど対応していましたが、市中の感染拡大が危惧され、早急に全救急隊に標準感染予防策の徹底や救急車の養生等の教養が必要でした。

しかし、緊急事態宣言下では、通常業務も制限され、職員間での接触機会も極力減らすという理由から集合教育ができなかったため、指導救命士が管内の10署所に出向する、インストラクター派遣型の研修を行いました。

私自身が出向し、教養や訓練を進める中で、感染防止対策に対する危機感や不安感は、研修前に新型コロナウイルス感染症傷病者の対応をしているか否かで、少なからず温度差を感じました。救急隊員が高い危機管理意識をもつことが、まずもっての課題だとも感じました。

研修は、真夏の暑い時期であったため、熱中症対策も行いながらの研修となりましたが、実施した職員からは非常に高い評価を得ることができました。



新型コロナウイルス感染症疑いの傷病者対応研修風景

当市でも、全国の感染拡大状況に比例し、感染者は増え、クラスターの発生や医療機関搬送後に新型コロナウイルス感染症の陽性と判明する事案も増えてきましたが、出場時の感染防止対策や事案終了後の清しきをはじめとする消毒作業の徹底を行ったことが功を奏し、救急活動時の新型コロナウイルス感染症への罹患は発生しておりません。

まだまだ終息の兆しがみえない新型コロナウイルス感染症ですが、気を緩めることなく、本部、指導救命士一丸となって今後も対応をしていきたいと思いをします。

2 最後に

新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、研修に参加させていただいた所属への感謝はもちろんのこと、令和2年度第2期の研修を共にした95名の同期との時間は今後の消防人生においてもかけがえのないものとなりました。

新型コロナウイルス感染症対策はどの消防本部においても、手探りの状態であったに違いありません。落ち着く兆しはみえていませんが、いつの日か過去の話になるよう、全力で諸課題に取り組み指導救命士として、救急活動を全うできればと思います。